

氏 名 : 安藤 嘉奈子
専攻分野の名称 : 博士 (教育学)
学位記番号 : 博乙第 84 号
学位授与年月日 : 平成 28 年 3 月 15 日
学位授与の要件 : 学位規則第 4 条第 2 項該当 論文博士
学位論文名 : 教職課程の授業へのロール・プレイング導入の効果に関する研究
論文審査委員 : (主査) 教授 高木 秀明
(副査) 教授 犬塚 文雄 教授 井上 果子
教授 中澤 潤 教授 吉川はる奈

学位論文要旨

ロール・プレイングは役割を演ずることを基本として心理・社会的発達を促進する教育的技法の総称である。代表的な方法には Moreno, J. L. (1889-1974) の創始した心理劇理論を基盤とした方法と社会的スキル訓練の場で用いられる方法があり、両者の相違を明確化するために前者を心理劇的ロール・プレイングと、後者をロール・テイキング (役割取得) とよぶこともある。

近年、文部科学省は教職課程教育へのロール・プレイングの導入を推進しており、教職に関する科目を中心にこの方法を用いるべき旨が示されている。1980 年代以降学校を取り巻く問題が深刻化したことを背景に、教職課程教育の場では、教育実習や採用当初の段階を念頭に置き、教育活動を支障なく行うための資質・能力を育成することの重要性が増している。教職課程の履修生に期待される資質・能力には、①社会性・コミュニケーション能力、②教師役割の理解、③児童・生徒理解や生徒指導・学級経営の視点の形成、④教職に関する学びの意欲等があげられる。

ロール・プレイングは前掲のような資質・能力の育成のために役立つと思われる。だが、心理劇や社会的スキル訓練に関する専門性を有した指導者の不足、実施効果の測定の難しさ等を主な要因として、教職課程の授業で履修生の資質・能力の向上をねらいとして行われるロール・プレイングの効果を検討した研究は少ない。しかし、教職課程教育の質の向上はわが国の学校教育全体の充実にもつながるため、この分野の研究は積極的に推進されるべきものと考えられる。

そこで本研究では、教職課程の履修生に期待される資質・能力の育成を目指したロール・プレイングの方法を考案して実践し、その効果を検討することを目的とした。本研究では、まず教職課程の履修生に期待される資質・能力と対応させて、ロール・プレイングの具体的な方法を検討し、4 通りの方法が見出された。そのため、それぞれの方法によるロール・プレイングを複数回実践し、ロール・プレイングとともに行った調査の結果とも照合させて、より効果的な方法に関する検討を繰り返した。以下にそれぞれの方法に関する研究の概要をまとめる。なお、すべてのロール・プレイングはウォーミングアップ、共通課題の演習、振り返りの 3 段階で行った。

(1) 教師を主役とした混合型ロール・プレイング

教師を主役とした混合型ロール・プレイングは、教師と生徒の相談場面を演じる方法であり、心

理劇と社会的スキル訓練の両方の要素が含まれている。劇は3人1組のグループ毎に行い、各グループにおいて参加者は教師役、生徒役、観客を交代で務めた。教師役は傾聴技法を中心としたカウンセリング技法を活用しつつ生徒役の相談に乗った。観客は劇の進行を共感的に見守るとともに振り返りでの司会を務めた。調査を行った結果、教師を主役とした混合型ロール・プレイングが、傾聴技法の習得感、教師役割を果たすことのやり甲斐・情熱・教育的愛情への理解、自発的な教育活動への自信、教職に関する学びの意欲を高めるうえで効果的であることがわかった。

(2) 教師を主役とした心理劇的ロール・プレイング

教師を主役とした心理劇的ロール・プレイングは、学級や学校の幅広い場面を設定して、教師が教育活動を行う劇を演じる方法であり、課題中心の方法、体験中心の方法の2通りがある。課題中心の方法では、学校教育に関連する課題を一つだけ取り上げて、教師の対応方法を考えながら時間をかけて劇を演じた。丁寧に演じるために教師役を演じる参加者は少人数とした。体験中心の方法では、学校生活の様々な場面を設定して役割を交代しつつ演じたため、すべての参加者が短時間ではあるものの教師役を自由に演じた。調査を行った結果、教師を主役とした心理劇的ロール・プレイングが、教師役割を果たすことのやり甲斐・情熱・教育的愛情への理解、教師役割を果たすことへの責任・苦勞への理解、自発的な教育活動への自信、教職に関する学びの意欲を高め、生徒指導・学級経営の視点を形成するうえで効果的であることがわかった。

(3) 生涯発達の心理劇的ロール・プレイング

生涯発達の心理劇的ロール・プレイングは、胎児期から老年期までの発達段階を毎回一つずつ取り上げて演じる方法であり、心理・社会的危機の肯定的側面を取り上げる方法と、心理・社会的危機の肯定・否定の両側面を取り上げる方法の2通りがある。いずれの方法においても劇では、各発達段階に属する人物とその人物の成長・変化に重要な影響を与える人物との象徴的な関係が演じられた。心理・社会的危機の肯定的側面を取り上げる方法では、参加者は良好な関係に関心を向けて劇を演じた。心理・社会的危機の肯定・否定の両側面を取り上げる方法では、参加者は良好な関係と葛藤的な関係を比較しつつ劇を演じた。調査を行った結果、生涯発達の心理劇的ロール・プレイングが、すべての発達段階の心身の様相や重要な人間関係に関する理解を深め、各発達段階に属する人物とのかかわりへの自信を高めるうえで効果的であることがわかった。

(4) マジックスクールの心理劇的ロール・プレイング

マジックスクールの心理劇的ロール・プレイングは、心理劇の一技法であるマジックショップの変法を用いた方法であり、預けて借りる形式、手放して得る形式の2通りがある。いずれの方法でも、劇では教育実習生役がマジックスクールの教師役・生徒役に教育実習に関連する悩みを相談し、教育実習に必要な資質・能力と、教育実習で支障となる可能性のある資質・能力を交換した。教育実習で支障となる可能性のある資質・能力は、預けて借りる形式では教育実習後に戻る設定とし、手放して得る形式では戻らない設定とした。調査を行った結果、マジックスクールの心理劇的ロール・プレイングが、教育実習に関連する資質・能力について自分に引きつけて振り返り、教育実習にのぞむ意欲を見直すうえで効果的であることがわかった。

以上を受けて結果を整理し、ロール・プレイングを通して育成可能な資質・能力とロール・プレイングの方法（具体的な実施手順、実施上の留意事項等）を対応させて体系化した。また、教

職に関する科目に含めることが必要な事項を確認し、本研究で実践したロール・プレイングが導入可能と考えられる科目について体系化した。